

目 次

- ① は じ め に
- ② 令和2年度 名古屋市道徳研究会 全体テーマについて
- ③ 小学校低学年・中学年研究部会
- ④ 小学校高学年・中学校研究部会
- ⑤ 本年度のあゆみ
- ⑥ 合同学習会
- ⑦ あ と が き

はじめに

令和2年度は元年度から続いていた新型コロナウイルス感染防止対策としての全国一斉休校措置から入学式・始業式がなんとか行われた後、すぐにまた休校となったことからスタートしました。この措置は長く続き、6月より児童生徒が登校できるようになるという緊急事態でした。そして、授業が始まった後も学校内の消毒、感染症対策を講じての授業、遅れた授業内容を取り戻す学習、精神的に不安定になった児童生徒への対応、密を避けるため会議の相次ぐ中止等が行われました。研究を重ねる場としての各研究会も集うことがかなわない状況が続きました。

しかし、このような環境にあっても研究会の皆さんは電話やメールで連絡をしたり文字を媒体とした紙面でのやりとりをしたりして共同研究を続ける努力をされました。会員の皆さんの意欲に私も勇気づけられました。

教師自らが考え議論する場の少ない中、様々な工夫をし検討を重ね授業案を作り上げ、その授業案をもって10月20日(火)柴田小学校で公開授業研究を行わせていただきました。今回は外部からの来校者を制限するため、ごく少数の参観者だけの授業研究でしたのでVTRを撮り、10月28日(水)勤務後、教育館でそれを見合っの事後検討会でした。新たな試みでしたが参加者も多く、話し合いも活発で驚かされました。

本会報は、精力的に活動を続けてきた2つの部会の研究を掲載しております。どちらの部会の内容も、テーマに沿った試みを意識した研究部員たちの知恵とアイデアを積み重ねてきたものとなっております。各学校で、ご活用をいただければ幸いです。

なお、研究の推進と会報刊行に際し、ご指導ご助言くださいました多くの皆様方に感謝を申し上げます。また、本研究会の役員・部員の皆様のご尽力に厚く敬意を表します。

令和3年1月

名古屋市道徳研究会顧問
名古屋市立春日野小学校長
三浦昌道

1 全体テーマ

夢に向かって生きる子どもたち

2 テーマの主旨

日々の生活の中で、子どもたちは明るい笑顔を見せます。また、子どもたち一人一人が夢に向かってひたむきに努力する姿に、私たちは人間としての美しさを感じます。このような夢に向かって生きる子どもたちの姿は、未来への希望そのものです。そして、教師、保護者や地域の人々は、このような子どもたちの姿にふれ、明日への活力をもらうこともあるはずです。私たちは、子どもたち一人一人が笑顔絶やすることなく、夢に向かって日々歩み続けていってほしいと願っています。

さて、小・中学校において「道徳科」が特別の教科となり、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標に、各学校においては道徳科の授業が行われています。私たちは、道徳教育の要となる、道徳科の授業を一層充実したものにしていかなければなりません。

また、「名古屋市学校教育の努力目標」には「なかまと学び 夢を創る」と示されています。さらに、「なかまとの対話を大切にし、主体的に学ぶこと」「自他を大切にし、人生をたくましく生きる力を備えること」を重点事項としています。これらを実現するには、子どもたちが見せる成長の様子や発達段階を考慮して、適切かつ、きめ細やかな道徳教育を進めていくことが必要不可欠であると考えます。

そこで、本研究会では、部会を二つに分けて、発達段階を考慮した授業の指導方法の工夫について研究に取り組むことにしました。「小学校低学年・中学年研究部会」では、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫について研究しました。

「小学校高学年・中学校研究部会」では、「人物教材」を活用した授業における指導方法の工夫について研究しました。

私たちは、道徳教育を通して、子どもたちが人間としてよりよく生きていこうとする姿を、「夢に向かって生きる」姿と捉え、実践を積み重ねていきました。



みんなと創る楽しい道徳科の学習

—体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫—



I テーマ設定の理由

昨年度本部会では、児童が「考えをもつことができる」「自分の考えを友達に伝えることができる」「友達の考えを受け入れることができる」姿を、児童が「楽しい」と感じて学習に取り組んでいる姿と考えました。そして、こうした姿が見られるように、1時間の道徳科の学習を児童と教師と一緒に創り上げていくことで、「学級のみみんなと一緒に考え、新しい発見をすることができて、道徳科の学習が楽しい」と、児童が道徳科の学習を「楽しい」と感じることにつながりました。そこで、今年度本部会では、児童と教師と一緒に道徳科の学習を創り上げていくことで、児童一人一人の考えが深まり、よりよく生きていこうとする心が育っていくと考え、実践に取り組むことにしました。

小学校低学年・中学年の児童は、何事にも興味や関心を示し、意欲的に行動する特徴が見られます。昨年度の研究からは、特に表現活動においてひと工夫を加え、教材中の人物の立場や行動、考え方や心の動きなどを追体験させ、自分のこととして考えさせる「道徳的行為に関する体験的な学習」を取り入れた授業において、児童が楽しいと感じながら学習する様子が多く見られました。

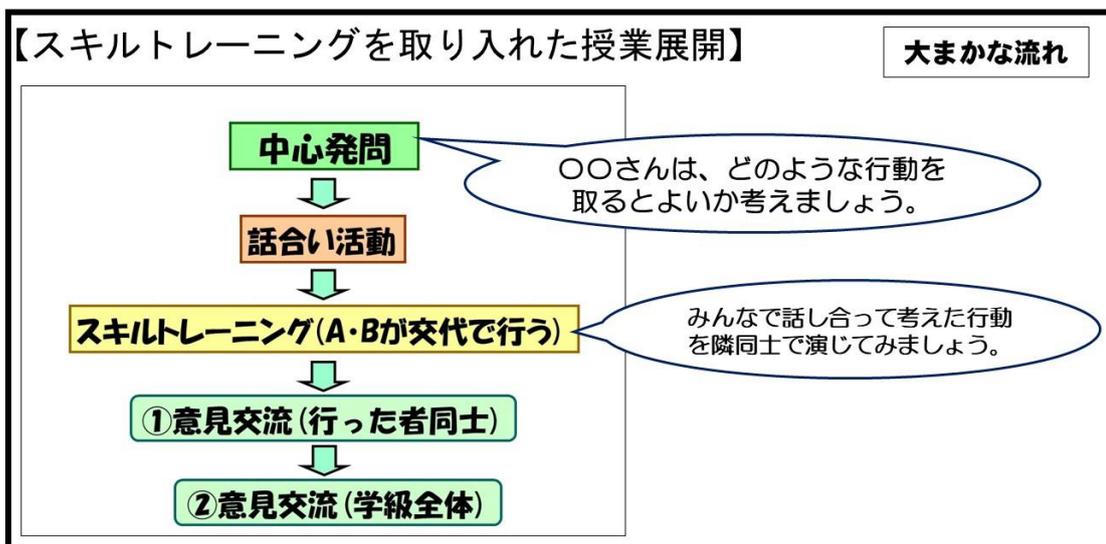
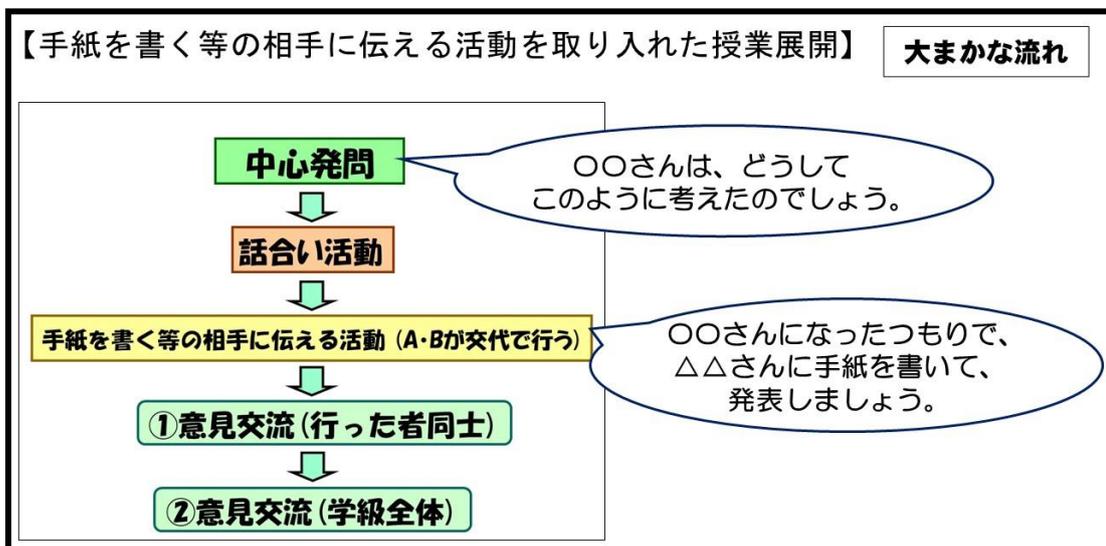
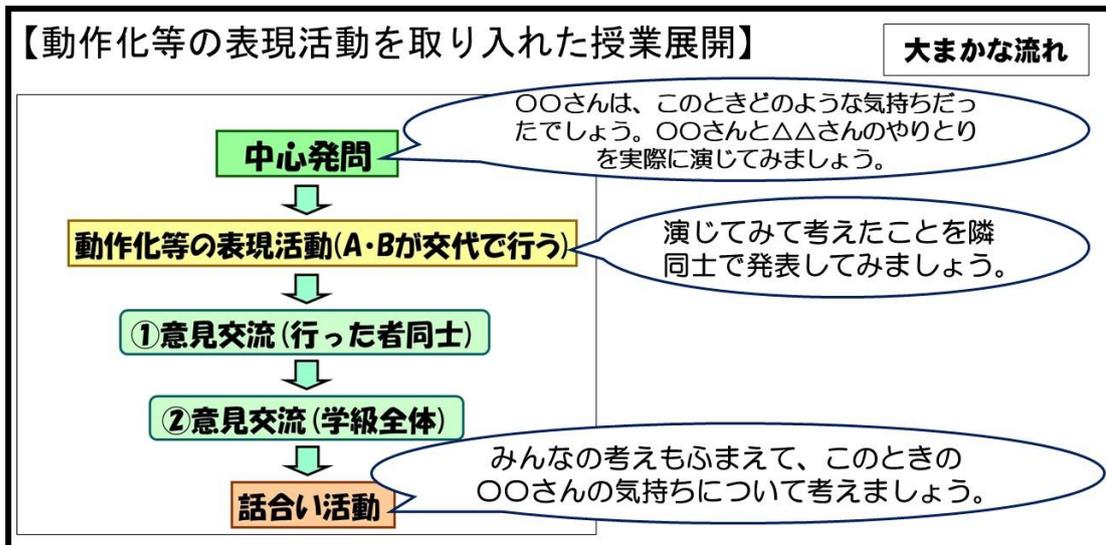
また、小学校は平成30年度、中学校は平成31年度より教科化された道徳科の授業においては、質の高い指導方法の確立が求められています。この指導方法の一つとして「道徳的行為に関する体験的な学習」が示されています。「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」においては、「児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」（下線は引用者）という記述があるように、「道徳的行為に関する体験的な学習」を取り入れた指導方法が挙げられています。

以上のことから、今年度の部会テーマを「みんなと創る楽しい道徳科の学習—体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫—」と設定し、研究を進めていくことにしました。

II 体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫について

本部会では、「みんなと創る楽しい道徳科の学習」を目指して取り入れる「道徳的行為に関する体験的な学習」として、授業の中で「役割対話活動」を行っていくことを考えました。私たちの考える「役割対話活動」とは、動作化等の表現活動、教材中の人物に手紙を書く等の相手に伝える活動、スキルトレーニングなど、児童に役割を与えて体験的な学習を行い、更に立場を交代して相手と双方向の対話を行うものです。そして、二人一組での話し合い活動を行った後、学級のみみんなと話し合うことで、授業で扱う道徳的価値に迫っていくことをねらいます。

【「役割対話活動」を取り入れた授業展開の例】



「役割対話活動」を取り入れた授業展開の例としては、以上のような、大きく三つのものが挙げられると考えます。

次のページからは、「役割対話活動」を取り入れた「みんなと創る楽しい道徳科の学習」の実践例を紹介していきます。

実践例①

動作化等の表現活動を取り入れた実践

小学1年

A 正直、誠実

【教材名】 きんの おの（出典：光村図書『きみがいちばんひかるとき 1年』）

【ねらい】 自分が落とした斧を神様に正直に伝える木こりの姿を通して、うそをついたりごまかしたりせず、正直であることの大切さについて気付かせることで、正直に行動しようとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

大切な斧を池に落としてしまった木こりは、神様に正直に答え、金、銀、自分の斧をもらう。



それを見ていた仲間の木こりは、自分ももらおうと、わざと池に斧を投げ捨てる。



神様にうそをついた仲間の木こりは、自分の斧を失う。

みんなと創る楽しい道徳科の学習のポイント

金・銀・鉄の模型の斧を使って、主人公である正直な木こりや、仲間の木こりの行動を動作化により再現した後、それぞれの木こりの気持ちを考えさせます。こうすることにより、主人公や仲間の木こりの気持ちに共感しやすくなり、児童に主人公や仲間の木こりになりきって気持ちを考える楽しさを味わわせることができると考えます。

【学習の過程】（T…教師、C…児童）

導入

- 1 正直に行動することができた経験と、そのときの気持ちを想起する。

T：正直に行動できたことはありますか。また、そのとき、どんな気持ちでしたか。

展開

- 2 主人公と仲間の木こりの行動を動作化により再現する。
- 3 正直な木こりの気持ちを考える。
- 4 うそをついた仲間の木こりの気持ちを考える。

T：斧が返ってこなかった仲間の木こりは、どんなことを思っていたでしょう。

C：ちゃんと本当のことを言えばよかった。

C：うそをついたから、斧を持っていかれて、嫌な気持ちになった。

終末

- 5 これから気を付けていきたいことを考える。

T：これからどんなことに気を付けていきたいか、考えてみましょう。

C：うそをつかないで正直に過ごしていきたい。

動作化の様子



再現する。教師が動作化により代表児童と神様役の正直な木こり役の

T：神様が金や銀の斧を持ってきたとき、木こりはなぜ「いいえ、違います」と答えたのでしょうか。

C：自分が落とした斧ではないから。

C：正直だったから。

C：うそをついたらばちが当たるから。

T：ばちが当たるのが怖いから、本当のことを言ったのですか。

C：（考えてから）そういうわけではない。正直に言った方が良かったから。

【実践を振り返って】

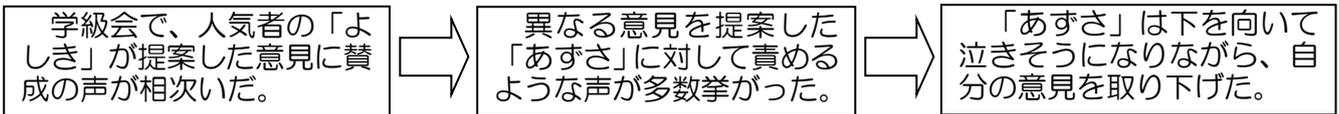
主人公である正直な木こりや、仲間の木こりの行動を動作化により再現したことで、楽しみながら登場人物の気持ちに寄り添って考える様子が見られた。また、動作化により再現することで、木こりになりきって考えることができ、誠実に生きようとするにつれて、自分のこととして考えることができた。

動作化等の表現活動を取り入れた実践

【教材名】 学級会での出来事（出典：光村図書『きみがいちばんひかるとき 4年』）

【ねらい】 みんなで話し合いをするときに、どんなことを心掛ければよいかについて考えさせることを通して、自分とは異なる意見にも耳を傾け、よりよい関係を築こうとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】



みんなと創る楽しい道徳科の学習のポイント

展開の前半では、学級会の様子を動作化により再現させることで、自分の意見を取り下げた「あずさ」の気持ちを共感的に捉えられるようにします。展開の後半では、「あずさ」が悲しまないような話し合いの仕方を考えさせた上で、学級会の様子を演じさせることで、話し合いの際に大切なことに気付かせることができると考えます。

【学習の過程】（T…教師、C…児童）

導入

1 話し合いがうまくいった経験を振り返る。

T：話し合いがうまくいった経験はありますか。

展開

2 教材中の学級会の様子を再現する。
3 どのように話し合いを進めるとよいか考える。

T：あずささんが悲しい思いをしないためには、どのように話し合えばよかったですか。

C：相手の意見を受け止める。

C：丁寧に話す。

T：今、考えたことを基にして、改めて学級会の様子を演じてみましょう。

※ あずさが嫌な思いをしないような話し合いの進め方を考えて、学級会の様子を再現させる。

終末

4 これから気を付けていきたいことを考える。

T：これからは、話し合いでどんなことに気を付けていきたいですか。

C：友達の話をしっかりと聞くようにする。

C：友達の考えも受け入れるようにしていきたい。

動作化の様子



あずさ役の児童

Point
あずささんは、自分が歌が好きなから、その曲を歌っているのではないですか。

※ あずさ役とあずさに反対する役の児童を指名し、動作化により学級会の様子を再現させる。

T：あずささんは、どんな気持ちだったでしょう。

C：もう嫌だ。

C：言わなければよかった。

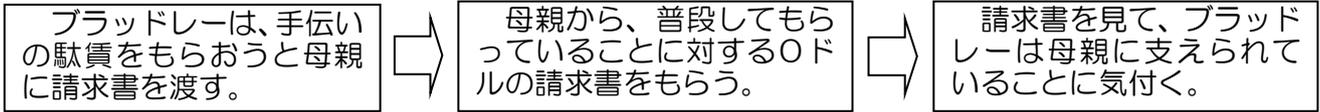
C：みんな聞いてくれなくて悲しい。

【実践を振り返って】

学級会の様子を動作化により再現させたことで、児童は「あずさ」になりきって考えることができた。考える楽しさを味わうことができた様子がうかがえた。授業後は、みんなで考えた話し合いのポイントを教室に掲示して、生活場面で活用していくことで、実践意欲を高めることにつながった。

【教材名】 ブラッドレーのせい求書（出典：光村図書『きみがいちばんひかるとき 4年』）
【ねらい】 請求書を母親に渡したブラッドレーと、ブラッドレーに1ドルも請求しなかった母親の姿を通して、家族の一員としての自分について考えさせることで、家族に対して敬愛の念をもち、家族のために進んで関わろうとする心情を育てる。

【教材の概要】



みんなと創る楽しい道徳科の学習のポイント

ブラッドレーから母親に向けて手紙を書く活動を通して、児童にブラッドレーの立場になりきることができるようにします。手紙を書く活動を通して、学習したことをこれからの自分の生活に生かそうとすることができると考えます。また、書いたものを互いに読み合い、全体で共有することで、授業のねらいに迫ることができると考えます。

【学習の過程】（T…教師、C…児童）

導入

1 家庭でしている手伝いを思い出す。

T：普段、どんな手伝いをしていますか。

展開

2 教材「ブラッドレーのせい求書」を読んで、涙の意味を話し合う。

T：ブラッドレーの涙には、どのような思いが込められていたでしょう。

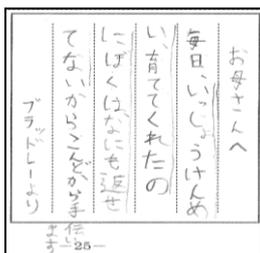
C：お母さんは、僕のためにたくさんのことをしてくれていた。気付かなくてごめんなさい。

C：お母さんは、家族のために働いてくれていたことが分かった。

終末

3 ブラッドレーからお母さんに手紙を書く。

T：ブラッドレーから、「お母さん。ごめんなさい」では、伝えきれなかった思いを手紙にして伝えましょう。



手紙を書く活動の様子

※ 書いた手紙を二人一組で相手に読み聞かせて、手紙を読んだ感想を伝え合う。

【二人一組で感想を伝え合っている様子】

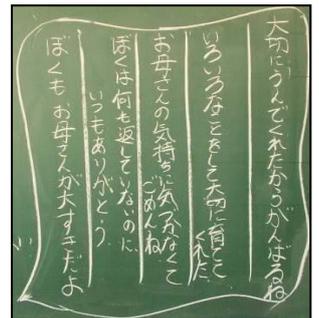
C1：（C2さんの手紙の）「お母さんのために頑張るよ」というところがいいなと思った。

C2：（C1さんの手紙の）「何も返せていない」というところがいいなと思った。

T：自分が書いた手紙をみんなの前で発表しましょう。

C：大切に育ててくれてありがとう。

C：お母さんの気持ちに気付かなくてごめんね。



<発表された手紙の内容をまとめた板書>

【実践を振り返って】

手紙を書く活動を取り入れて、お母さんに対するブラッドレーの思いを深く考えさせたことで、家族を大切にしようという思いをもつことができた。授業後には、「自分もこれからは進んで手伝いをしたい」と、家族のためにこれから自分ができると考える児童も見られた。

スキルトレーニングを取り入れた実践

【教材名】 ありがとうの手紙（出典：光村図書『きみがいちばんひかるとき 2年』）

【ねらい】 身近な人への感謝の気持ちを伝える3人の児童の手紙から、「ありがとう」を伝えることは、どうして大切なのかを考えさせることで、日頃世話になっている人々に感謝の気持ちを伝えようとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

- 3人の児童から、様々な人に向けて書かれた感謝の手紙が紹介されている。
- ① 担任の先生に対して、先生になる夢をもたせてくれたことへの感謝の手紙
 - ② 姉に対して、いろいろなことを教えてくれたことへの感謝の手紙
 - ③ 弟に対して、生まれてきてくれたことへの感謝の手紙

みんなと創る楽しい道徳科の学習のポイント



表情の絵を描いた「表情カード」を用いて、「ありがとう」と「どういたしまして」を伝え合うスキルトレーニングを行います。「ありがとう」を伝えるときにはどんな表情になるかを描かせることで、スキルトレーニングを行うことを容易にし、感謝の気持ちについて深く考えることができると考えます。また、外国にルーツをもつ児童にも、学習に興味をもちやすくするために、授業の中で、様々な言語の「ありがとう」の挨拶の仕方を取り上げます。



<表情カード>

【学習の過程】（T…教師、C…児童）

導入

1 様々な言語の「ありがとう」について考える。

T：世界の「ありがとう」の言い方で、知っているものはありますか。

C: Thank you
C: 謝謝
C: Salamet

展開

2 教材を読み、「ありがとう」を伝えるときには、どんな表情で話すとよいかを考えて、絵に描く。

T：「ありがとう」を伝えるときには、どんな顔をすればよいか考えて、絵に描きましょう。

※ 「表情カード」を手に持って、「ありがとう」と「どういたしまして」を伝え合うスキルトレーニングを行わせる。

終末

3 教師の説話を聞く。

※ 「ありがとう」という何気ない一言で、心が温かくなった説話をする。

スキルトレーニングの様子



C1：ありがとう。

C2：どういたしまして。

※ 「表情カード」を持って、互いに交代しながら活動を行わせた。児童は、相手の目を見て伝えたり、思いを込めてゆっくりと話したりして、言い方を工夫することができた。



T：このように「ありがとう」を伝えると、どんな気持ちになりますか。



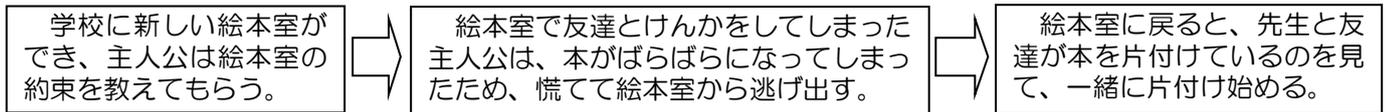
C：うれしくなる。
C：心が温かくなる。
C：言われた方もうれしくなる。

【実践を振り返って】

「表情カード」を使ったスキルトレーニングを行ったことで、自分が良いと思う「ありがとう」の言い方を、互いに分かりやすく伝え合うことができた。「表情カード」は、日本語を十分に書けない児童が発表する手段として使うことができるため、全員が楽しく学習に参加することにつながった。

【教材名】 あたらしい絵本室（出典：NHK for School「新ざわざわ森のがんこちゃん」）
【ねらい】 きまりを守らずに行動すると、自分も周りの人も嫌な思いをすることに気付かせることを通して、約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にしようとする心情を育てる。

【教材の概要】



みんなと創る楽しい道徳科の学習のポイント

乱雑な本棚を示し、その本棚を見たときの気持ちを、笑った顔、泣いた顔、怒った顔の3種類のカードから選ばせます。次に、スキルトレーニングとして、本棚を整理する活動を実際に行わせます。その後、整理された本棚を見たときの気持ちを表情カードで表現させることで、自分の行動が友達をどのような気持ちにさせるのか、視覚的に分かるようにします。

【学習の過程】（T…教師、C…児童）

導入

- 1 本が乱雑に入れられている本棚の写真を見て、きまりに関する道徳的な問題を捉える。

T：この本棚は、このままでよいのでしょうか。

展開

- 2 映像教材を見て、きまりを守らないと、どのような気持ちになるか考える。

T：がんこちゃんは、このときどんな気持ちだったのでしょうか。

- 3 表情カードを使ったスキルトレーニングにより、きまりを守らないと、どんな気持ちになるか考える。

- 4 自分や周りの人が気持ちよく過ごすためには、どうしたらよいか考える。

T：自分や周りの人が気持ちよく過ごすためには、どうしたらよいでしょう。

終末

- 5 本棚のこと以外にも、みんなにとって大切なきまりはないか考える。

T：他にも、大切なきまりにはどのようなものがあるのでしょうか。

スキルトレーニングの様子

T：ぐちゃぐちゃの本棚だと、みんなはどんな顔になるでしょう。

C：（泣いた顔の表情カードを選ぶ）

C：（怒った顔の表情カードを選ぶ）

T：みんながニコニコの顔になる本棚とは、どんな本棚でしょう。みんなで整理してみよう。

C：（前に出て、実際に本棚の整理をする）
大きい本はこうやって入れた方がいいよ。

T：そうなんですね。この本棚だと、みんなは、どんな顔になるでしょう。

C：（笑った顔の表情カードを選ぶ）
こういうキラキラの笑顔になると思ふよ。



【実践を振り返って】

スキルトレーニングを行ったことで、活動を通して自分の考えた行動を具体的に表現する経験を積むことができた。表情カードを使って視覚的に捉えることは、友達の気持ちに対する理解を深めるのに効果的であった。今後は表情カードの種類を増やして、より多様な考えを表現できるようにしたい。

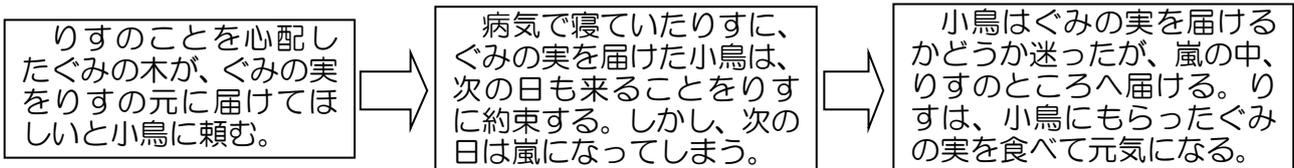
動作化等の表現活動を取り入れた実践

小学2年
B 親切、思いやり

【教材名】 ぐみの木と小鳥（出典：光村図書『きみがいちばんひかるとき 2年』）

【ねらい】 嵐の中でも病気のりすにぐみの実を届けた小鳥の姿を通して、相手のために行動することが大切であることに気付かせることで、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

【教材の概要】



みんなと創る楽しい道徳科の学習のポイント



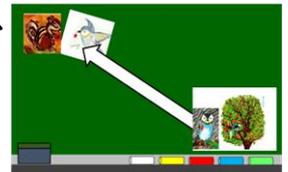
体験的な学習（役割対話活動）を取り入れた指導方法の工夫

小鳥が葛藤する場面で、個人で考えた小鳥の思いを、隣同士で対話を行いながら意見交流する「役割対話活動」を取り入れます。小鳥の葛藤や決断の根拠を問う「ぐみの木」役と、その問いを受けて思いを伝える「小鳥」役に分かれてインタビューをさせることで、友達と考えを共有しながら、自分の考えを振り返ったり、新たな考えに気付いたりすることができます。



板書により視覚化する工夫

「役割対話活動」を行い、小鳥の思いを学級全体で発表し合った後、発表された思いを視覚化して板書にまとめます。その後、板書の中から、小鳥を動かした一番強い「優しさ」を選択させます。このように、みんなで考えを出し合って視覚化し、そこから更に自分の考えを深める活動を行うことで、考えに自信がない児童や、考えに迷っている児童が、明確に自分の考えをもつことにつながります。そして、新たな考えに気付くことができ、授業で扱う思いやりについてみんなで考えを深めていくことができます。



【学習の過程】（T…教師、C…児童）

導入

1 「優しくして、うれしかったこと」について、アンケートの結果を知り、「親切、思いやり」に目を向ける。

T：みんなが書いた「優しくして、うれしかったこと」を紹介し



【アンケートに対する児童の回答】

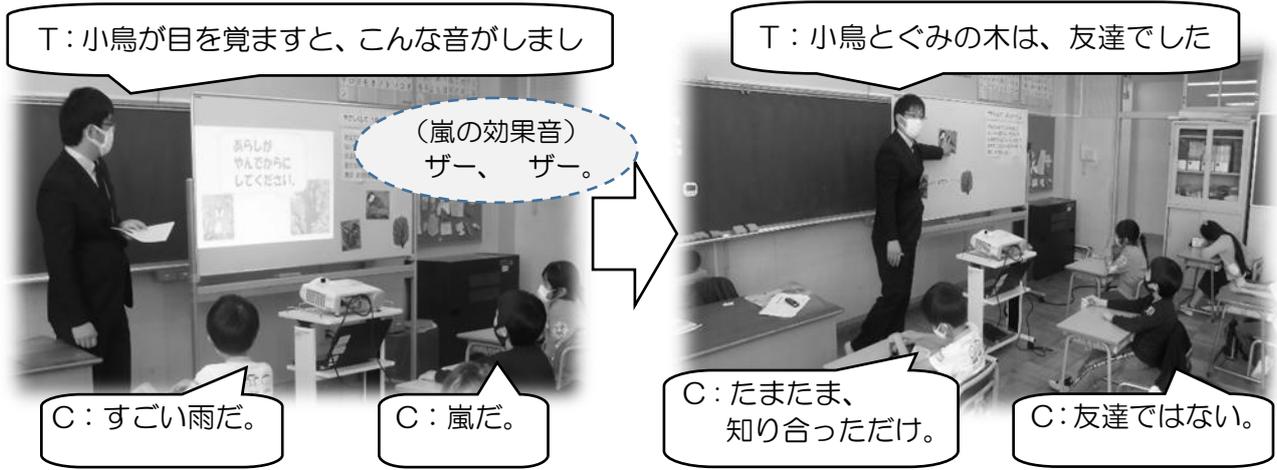
- ・お父さんの肩もみをした
- ・泣いている友達に声を掛けた
- ・おばあさんの荷物を持った
- ・友達に順番を譲った
- ・弟の世話をした



〈考察〉 導入では、事前に行ったアンケートの結果を基に、優しさについて考えさせた。児童は「私もしたことがある」「僕もそう思った」などと発言し、友達の考えに共感していた。アンケートを活用し分かりやすい例を紹介することで、身近な人に優しくした経験を想起させることができた。

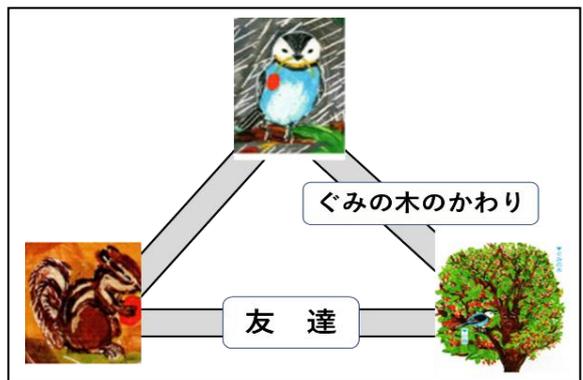
展開

2 スライドを活用した教師の範読を聞き、教材の内容を捉える。



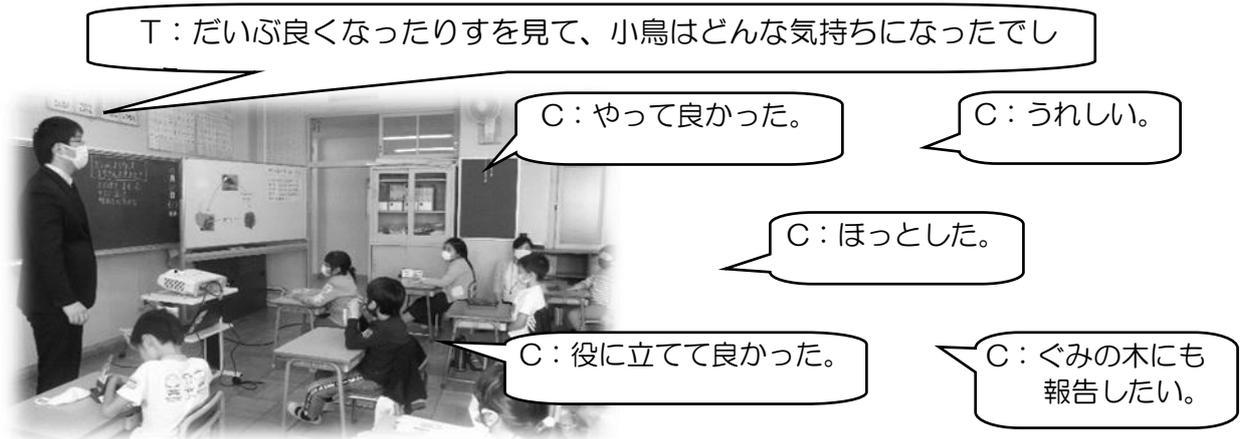
ICT を活用して効果音や挿絵の動きを取り入れた教材提示の工夫

登場人物の関係を捉えさせる黒板横のホワイトボードの活用



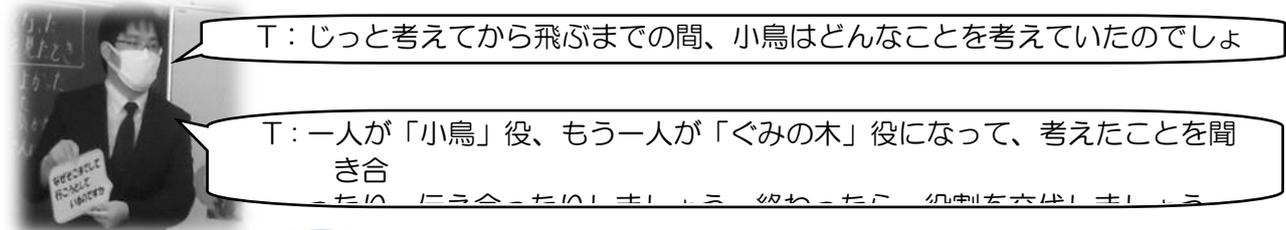
〈考察〉 範読の際に、効果音や挿絵の動きを取り入れたり、登場人物の関係図を示したりすることで、教材の内容を捉えやすくした。視覚的に分かりやすく教材を提示することで、児童は、教材の内容や登場人物の関係を正確に理解することができた。

3 ぐみの実を食べ、体の具合が良くなったりすを見た小鳥の気持ちを考える。



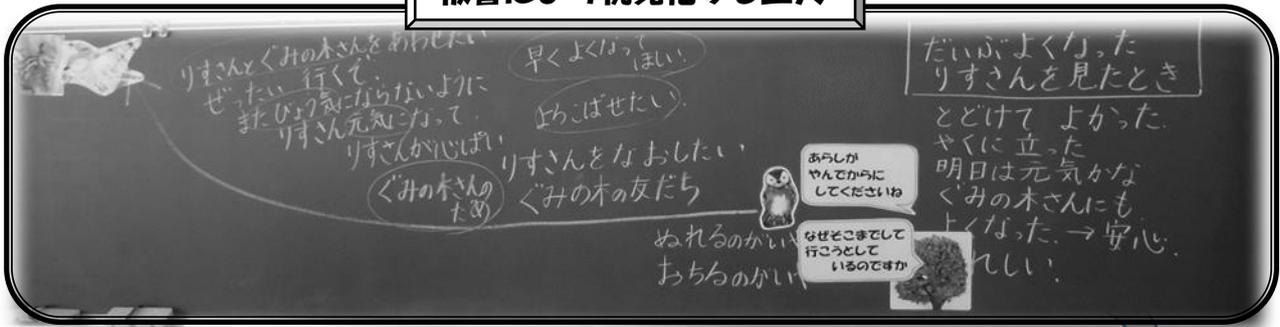
体験的な学習（役割対話活動）を取り入れた指導方法の工夫

4 止みそうもない嵐の中で、じっと考えてから飛び立つまでの間に、小鳥が考えたことを想像し、話し合う。



<考察> 役割を与えて対話をさせることで、児童は、ワークシートに記述したときには思い付かなかった小鳥の気持ちを話すことができた。あらかじめ質問の話型を提示して、ぐみの木役の児童に質問をさせることで、2年生の児童でも、戸惑うことなく活発な対話を行うことができた。

板書により視覚化する工夫



＜「役割対話活動」での児童の考えを視覚化した板書＞

5 小鳥を動かした一番強い気持ちを選んで、話し合う。

T: この中で、小鳥を動かした、一番強い優しさはどれでしょ

板書を基にした
話し合い活動

C: りすに早く良くなってほしいという気持ち。

C: りすを、また喜ばせたいという気持ち。

C: りすをぐみの木に会わせてあげたいという気持ち

＜考察＞ 小鳥の気持ちを視覚化した板書を基にして話し合い活動を行ったことで、考えを共有することができた。また、多くの児童が新たな考えに気付くことができた。「一つだけではなく、複数選びたい」という児童もあり、多角的な視点をもった考えの広がりが見られた。

終末

6 小鳥やぐみの木のように、相手を強く思う気持ちをアンケートから探す。

T: みんなのアンケートの中にも、小鳥のような優しさがあります

C: おばあさんの荷物を持つときおばあさんの気持ちを考えた。

T: そうなんですね。みんなの心の中にも小鳥と同じくらい、優しさがあるの

C: 友達に順番が変わるとき、僕が変わってあげなければいけないと思った。

【授業研究（公開授業）の成果と課題】（○：成果、●：課題）

- 小鳥の思いについて、板書により視覚化して話し合い活動を行ったことで、自分の考えに自信がもてない児童や迷っている児童が、明確に考えをもつことにつながった。普段発言の少ない児童も含め、多くの児童の発言を引き出すことができた。
- ペープサートを使って、質問する側の児童には話型を示して、「役割対話活動」を行ったことで、役割になりきって小鳥の気持ちを考えることができた。
- 「役割対話活動」がうまく進められなかったペアがあった。示された話型以外にも、自由に質問をさせるといように、答える側の児童だけでなく、質問する側の児童にも、役割に応じた言葉掛けをさせることで、より登場人物の気持ちを引き出せるようにする。

V 小学校低学年・中学年研究部会のまとめ

(1) 成果と課題

本部会では「みんなと創る楽しい道徳科の学習—体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫—」をテーマに研究を進めてきました。その結果、次のような成果と課題が明らかになりました。

【成果 (○)】

- 「役割対話活動」を行ったことで、友達と考えを共有しながら、自分の考えを振り返ったり、新たな考えに気付いたりする児童の姿を多く見ることができた。
- 「役割対話活動」を行ったことで、「自分の考えをもつ」「自信をもって自分の考えを発表する」「友達の考えに共感する」というように、児童が楽しく学習に取り組む様子を多く見ることができた。児童と教師と一緒にこのような学習を創り上げることができたと考える。

【課題 (●) と改善点 (→)】

- 「役割対話活動」において、「動作化等の表現活動」には取り組みやすく、様々な実践をすることができた。しかし、「手紙を書く活動」や「スキルトレーニング」を取り入れた実践にはなかなか取り組むことができなかった。
→ 教材によって「役割対話活動」を取り入れやすいものと、そうでないものがある。それぞれの教材で、どのような道徳的行為に関する体験的な活動を取り入れることが効果的であるかを考えて、教材研究を行っていく必要がある。
- 「役割対話活動」は効果的であったが、ワークシートに記述した内容を発表し合うだけになってしまい、対話が十分深まらないことがあった。
→ 効果的な対話を行うためには、教師の入念な準備に加えて、日頃から様々な授業の中で「役割対話活動」を取り入れる必要があると考える。対話の進め方に関しては、様々なパターンが考えられるため、その進め方について研究を深めていく必要がある。

<部員の声から>

「役割対話活動」を取り入れた学習を行うことで、児童が楽しんで学習に取り組むようになりました。



授業の準備をする際、「楽しい学習」にするために、「役割対話活動」を取り入れた様々な工夫を考えるようになりました。

(2) 今後の方向性

児童が「楽しい」と感じる道徳科の学習は、学習を深めるという点においても有効であるということが分かりました。今年度は、道徳的行為に関する体験的な活動を取り入れた指導方法の工夫について研究を行ってきました。その中で、様々な工夫は何のために取り入れるのかということを中心に考えながら、授業づくりをしていくことが大切であるということを感じました。今後も、児童が「楽しい」と感じる道徳科の学習になるように、研究を進めていきたいと思えます。

思わず考えたくなる道徳科の学習

—「人物教材」を活用した指導方法の工夫—



I テーマ設定の理由

「自分の考えを伝えようとする」「友達のことを聞いて更に考えようとする」「授業後にも周りの友達と学習した内容について議論が続く」。これらが私たちが考える「思わず考えたくなる道徳科の学習」で見せる児童生徒の姿です。このような児童生徒の姿を目指して、昨年度は授業の中で「思わず考えたくなる時」を設定し、発問の工夫や教材提示の工夫など、様々な工夫を取り入れて研究を行ってきました。

その成果として、児童生徒一人一人が課題をもったり、自分の考えをもったりすることができるようになり、授業で扱う道徳的価値に興味や関心をもち、考えを深めることができたことが挙げられます。しかし、一人一人が考えをもち、考えを伝え合うことはできたものの、話し合っただけで考えたことを基に更に議論する段階に至ることが困難であったという課題が残りました。特に、伝記を題材とした教材（以下、「人物教材」という）を活用した授業において、課題が顕著であり、更に研究を深めていく必要性を感じました。

そこで、今年度本部会では、「人物教材」を活用した指導方法に焦点を当てることにしました。

II 「人物教材」を活用した道徳科の授業において、「思わず考えたくなる」とは

まず、「人物教材」を活用した授業の課題として、①「児童生徒と扱う人物との間に隔たりがあること」、②「児童生徒に自分のこととして考えさせることが困難であること」を考えました。次に、以下のようなときに、児童生徒が「思わず考えたくなる」のではないかと考えに至りました。そして、「人物教材」を活用した授業において、指導方法を工夫して実践を行いました。

- | | |
|--|----|
| <ul style="list-style-type: none">① 人物に興味や関心をもちたとき② 人物と自分が似ていると思ったとき③ 人物に親近感をもちたとき④ 自分の生活とのつながりを感じたとき | など |
|--|----|

III 「人物教材」を活用した授業における指導方法の工夫

「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」には、「先人の伝記には、多様な生き方が織り込まれ、生きる勇気や知恵などを感じることができるとともに、人間としての弱さを吐露する姿などにも接し、生きることの魅力や意味の深さについて考えを深めることが期待できる」と記されています。「人物教材」を活用するにあたり、工夫を取り入れることで、児童生徒と人物との距離を縮めたり、児童生徒が自分のこととして考えられるようにしたりして、児童生徒が思わず考えたくなる道徳科の学習を目指します。

「人物教材」を活用した授業における工夫の例

【人物に興味や関心をもてるようにする】



- 人物との出会わせ方や人物の紹介の仕方を工夫する
- 漫画や映像を活用して、教材提示の方法を工夫する など

【自分と人物が似ていると思えるようにする】

- 自分自身と人物との距離を視覚化する
- 人物の悩みや葛藤にふれる など

【人物に親近感をもてるようにする】

- 自分の生き方と人物の生き方を比較する

【自分の生活とのつながりを感じられるようにする】



人物との距離が縮まっている姿

- 「〇〇（人物）についてもっと知りたい。学びたい」
- 「〇〇（人物）にも、私と同じように悩んだり失敗したり経験があったのだ」
- 「〇〇（人物）の△△という考え方は、私と一緒にだと分かった」

評価の観点

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか



自分のこととして考えている姿

- 「今までは、失敗するとすぐに諦めたり、くよくよしたりしていたけれども、これからは前向きに頑張ってみたいと思った」
- 「今後は、〇〇（人物）の行動の仕方を手本にしたり、考え方を取り入れたりしてみたい」

評価の観点

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

思わず考えたくなる道徳科の学習

実践例①

主題名

真実を求めて

人物：ナイチンゲール

小学5年 A 真理の探究

【教材名】 真の看護を求めて —— ナイチンゲール

(出典：光村図書『きみがいちばんひかるとき 5年』)

【ねらい】 細かな観察から真実を突き止め、解決への道を開いたナイチンゲールの生き方から、疑問や分からないことをそのままにせず、真実を追求し続けようとする心情を育てる。

【教材の概要】

ナイチンゲールは、クリミア戦争の看護団として、兵士たちの手当てをする。しかし、手当の方法は間違っていないはずなのに、兵士はどんどん死んでいく。



ナイチンゲールは、その原因を突きとめようと奔走する。その結果、病院の環境や病院の立地に原因があることを突き止める。



ナイチンゲールが、状況をよく観察し、誰も気が付かなかった事実を目を向けたことによって、死の原因が突き止められ、問題の解決へとつながる。

思わず考えたくなる工夫

人物との距離を縮めるために



自分のこととして考えられるように

【工夫1】

★漫画の場面絵を活用する
→教材の内容を捉えやすくする

【工夫2】

★人物の思いと自分の思いを比較する
→行動は、まねができないようなことであるが、思いは自分ももつことができることに気付かせる



【学習の過程】 (T…教師、C…児童)

導入 1 ナイチンゲールについて知る。

※ 事前に教科書を読ませておく。導入では、〇×クイズを行い、楽しい雰囲気です授業を始める。教科書に載っていないナイチンゲールについての内容にもふれ、人物に興味をもたせる。

出題した〇×クイズの例

- ① ナイチンゲールは、「ランプの魔人」と呼ばれた。
答え・・・「×」(「ランプの貴婦人」と呼ばれた)
- ② ナイチンゲールが看護師になれるように、ナイチンゲールの家族みんなが応援した。
答え・・・「×」(家族には反対された)
- ③ ナイチンゲールが発明したものが、現在の病院でも使われている。
答え・・・「〇」(ナースステーションやナースコールは、ナイチンゲールによる発明である)

展開 2 漫画「ナイチンゲール」(出典: KADOKAWA 『まんが人物伝ナイチンゲール』) の
クリミア戦争の場面絵をもとに話し合う。

T: 1~16 場面の中で、ナイチンゲールが素晴らしいと思う場面はどこですか。
また、その理由は何ですか。

C: 5 場面です。兵士たちのために働いているから。

C: 8 場面です。高い目標をもって働いているから。

C: 11 場面です。考えるだけでなく、解決のための行動力があるから。

C: 14 場面です。誰もやったことのないことをやっているから。

C: 15 場面です。誰も気付かなかったことに気付いたから。



漫画の場面ごとに、素晴らしいと思う理由を発表させることで、どの場面の何が素晴らしいのかが明確になる。

T: ナイチンゲールの生き方から、手本にしたいと思ったことは、どんなところですか。

C: 誰もやったことのないことに挑戦したところ

C: 行動力があるところ

C: 探求心と、それを実行に移した積極性

C: 誰かのために頑張るところ

終末 3 ナイチンゲールの思いと自分の思いを比較する。

T: どのような思いがあったから、このようなことができたのでしょうか。

C: 世界を平和にしたいという思い

C: 人の役に立ちたいという思い

C: 自分で解決したいという思い

C: 諦めたくないという思い

T: みなさんの心の中から、このような思いを探してみましょう。

C: 私は、「諦めたくないという思い」があります。

T: このような思いをもって実行に移していくと、
手本にしたいナイチンゲールのような姿に近付くことができると思います。



ナイチンゲールの思いと自分の思いを比較させることで、自分の生活とのつながりを感じさせることができる。

【実践を振り返って】

教科書の教材に加えて漫画の場面絵を活用したことで、内容を捉えやすくしたり、人物に興味をもたせたりすることができた。また、場面ごとに、行動と素晴らしいと思う理由を整理して板書したことで、人物の行動から手本にしたいと思う理由を明確にすることができた。

実践例②

主題名

くじけないで

人物：国枝慎吾

小学5年 A 希望と勇気、努力と強い意志

【教材名】 世界最強の車いすテニスプレーヤー —— 国枝慎吾

(出典：光村図書『きみがいちばんひかるとき 5年』)

【ねらい】 努力と強い意志によって困難を乗り越えていく国枝選手の生き方から、目標をもち、困難があってもくじけずに努力しようとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】



小学5年の主人公は、水泳の記録会で友達に負けて、投げやりになっていた。



主人公は、国枝選手の番組を見て、自分と国枝選手との違いに気付く。



ライバルは相手ではなく、昨日の自分自身であると考え、やる気を取り戻す。

思わず考えたくなる工夫

人物との距離を縮めるために



自分のこととして考えられるように

【工夫1】

★3人の人物を提示して、比較する 
→努力について自分の考えに目を向けさせる

【工夫2】

★人物との距離を視覚化する
→主人公と人物との違いを明確にする

【工夫3】

★距離を縮めるために大切なことを考える
→大切なことを自分自身との関わりで捉えさせる

【学習の過程】 (T…教師、C…児童)

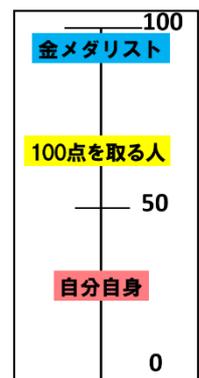
導入 1 3人の人物について、どれだけ優れていると思うかを考える。

T：「金メダリスト」「テストで100点を取る人」「自分自身」の3人について、どれだけ優れていると思うか、メーターに表しましょう。

C：金メダリストは、「100」のところ。

C：テストで100点を取る人は、「60」くらい。

C：自分自身は、かなり低いところだと思う。



展開 2 主人公や国枝選手の考えについて話し合う。

T：練習しているとき、主人公と国枝選手の「頑張ろう度」は、どれくらいでしょう。

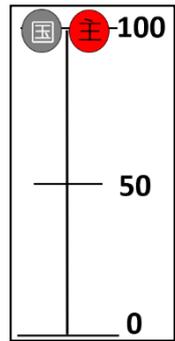
C：一生懸命に練習していたから、二人とも数値は高い。

C：二人とも「100」の位置だと思う。

T：どうして二人とも一生懸命に練習したのでしょうか。

C：二人とも、自分の目標を達成したいと思っていたから。

C：周りの人に認められたいから。



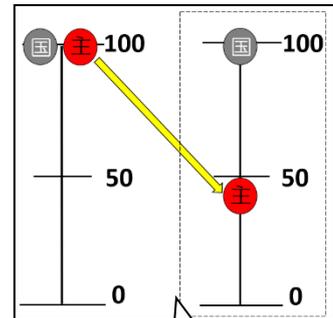
T：結果が出なかったとき、主人公と国枝選手の「頑張ろう度」は、どれくらいでしょう。

C：国枝選手は、高い位置のままだと思う。

C：主人公は、かなり低い位置になると思う。

T：どうして低い位置になると思いますか。

C：「どうせ勝てない」と諦めてしまっているから。



T：「頑張ろう度」の差を埋めるためには、何が大切でしょう。

C：「練習の方法を変えよう」と、前向きになること

C：自分に自信をもつこと

T：「自分に自信をもつ」とは、どういうことですか。

C：「これだけ練習して負けたのなら仕方がない。次も頑張ろう」と考えること



国枝選手と主人公の差を視覚化し、この差を埋めるために大切なことを考えさせ

終末 3 本時の学習を振り返る。

T：今日の学習で考えたことは何ですか。

C：私も、できないことがあっても、すぐに諦めずに頑張りたい。

C：自分に負けないということを大切に生きていこうと思った。

C：負けた悔しさをエネルギーに変えて、「今度こそは勝つぞ」というつもりで頑張りたい。

T：自分は優れていないと諦めることなく、努力することを大切にしましょう。

【実践を振り返って】

「すごい人物」という感想で終わらないようにするために、自分自身を投影した主人公と人物との距離を視覚化する必要があると考え、メーターを活用した。そして、「差を埋めるためには、何が大切でしょう」と発問したことで、「こうするとよいのかな」と、自分のこととして考えることにつながった。

実践例③

主題名

自分のよさを伸ばす

人物：イチロー選手

中学1年 A 向上心、個性の伸長

【教材名】 まだ進化できる ～イチロー選手の生き方～

(出典：教育出版『とびだそう未来へ 1年』)

【ねらい】 イチロー選手が進化し続けられる理由について考えさせることを通して、個性を伸ばしていこうとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】



日本とアメリカの大リーグでプレーをし、日米通算安打数は4257本で世界一になる。



イチロー選手は、幼い頃から、人に笑われるような目標でも常に達成してきているという自負がある。毎日決まった時間に決まった行動をとることを心掛け、常に自分の力を出せるようにしていた。どんな状況でも自分のベストの力を出せるように準備し続けていた。



イチロー選手からのメッセージは、私たちに自分自身を成長させていくための多くのヒントを与えてくれている。

「何かをしようとしたとき、失敗を恐れなくて、やってください。必ず、将来の役に立つと思います」(一部抜粋)

思わず考えたくなる工夫

人物との距離を縮めるために



自分のこととして考えられるように

【工夫1】

★イチロー選手のクイズを出す
→イチロー選手について知り、興味をもたせる

【工夫2】

★イチロー選手の名言を提示する
→考えを深めさせる



【学習の過程】 (T…教師、S…生徒)

導入 1 イチロー選手についてのクイズに答え、イチロー選手に興味をもつ。

T：愛知県出身、野球選手、背番号51番。この人物は、誰か分かりますか。

S：イチロー選手

T：正解です。イチロー選手は、最近では、「教えてイチロー選手」という動画で、視聴者の人生の悩みに真剣に答えていて、話題になっている人物です。

イチロー選手に興味をもたせるために、クイズ形式により授業に参加させる。その他にも、話題となっている動画や、出演しているコマーシャルについても紹介する。



展開 2 教材「まだ進化できる～イチロー選手の生き方～」を読んで、話し合う。

T：イチロー選手は、どんなところが優れていると思いませんか。

S：笑われてもやり続けるところ

S：目標を変えないところ

S：毎日同じ時間に起きるところ

S：色々と工夫しているところ

T：なぜイチロー選手は努力し続けることができたのでしょうか。

S：夢を追い求めているから。 S：「どうせ無理だから」という考えをなくしたいから。

S：他の誰かとではなく、過去の自分と比べて、どれだけ成長しているかを考えているから。

S：目標を達成したいという思いがあるから。 S：みんなにすごいなと思わせたいから。

S：過去に負けた相手を見返したいから。

S：いや、私は、見返すためだけなら、努力をし続けることはできないと思う。

T：では、イチロー選手は、見返すことよりも大切にしていたことがあったのでしょうか。

S：野球が好きで、その好きだという思いを努力に変えていたと思う。

T：イチロー選手の「努力」についての名言を紹介します。



自分がやると決めたことを信じてやっていく。でも、それは正解とは限らない。間違っただけを続けてしまっていることもある。でも、そうやって遠回りすることでしか、本当の自分に出会えない。

イチロー選手の名言を紹介し、努力することについて、更に考えることができるようにする。

T：これから、あなたは何に対して努力しますか。

S：習い事

S：将来の夢

S：勉強

終末 3 本時の学習を振り返る。

T：今日の学習で考えたことは何ですか。

S：素晴らしい人ほど、人一倍努力をして結果を残しているのだから、自分も努力をして将来大きな結果を残したい。

T：間違えたり、失敗したりしたことから学ぶことで、目標に一步一步近付いていけると思います。

【実践を振り返って】

イチロー選手のクイズを出すことで、イチロー選手に対する興味をもたせることができた。また、授業の後半に、教師の心に残っている名言を提示することで、努力することについて、更に考えをもたせることができた。その結果、イチロー選手の偉大さだけが印象に残る授業にはならず、学校生活でどのように頑張り、つらいときにどのように克服していくかということについて、自分のこととして考えることにつながった。

実践例④

主題名

自信をもって前向きに

人物：竹下佳江

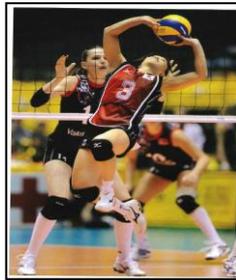
中学2年 A 希望と勇気、克己と強い意志

【教材名】 短所を武器とせよ（出典：教育出版『とびだそう未来へ 2年』）

【ねらい】 短所の見方や考え方について話し合わせることを通して、自分の短所に対する見方や考え方を変えて、困難を乗り越えていこうとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

全日本女子代表のセッターの竹下佳江選手は、身長が159 cmしかない。



海外の選手より身長が30 cm以上低いですが、高い技術のスピードを身に付け、第一線で活躍した。

竹下選手は自分の欠点から目をそらさず、何が必要かを考え続けた。

【映像教材の概要】 ※ 教科書の読み物教材を読む前に、映像教材を視聴した。

（出典：TBS テレビ「石橋貴明のスポーツ伝説…光と影」）

女子日本代表チームは、シドニー五輪の最終予選に敗退し、連続出場を逃した。この敗退の原因の矛先は、竹下選手に向いた。「背が低いセッターを使うから負けた」「竹下の上からスパイクを狙われた」などと言われ、自分にはバレーボールに居場所がないと感じた。

しかし、再び五輪出場を目指した。身長が低い分、技術を高めたり、スピードを付けたりして、他の人が考えなくてもよいところまで考えて取り組んだ。2006年の世界バレーで日本人初のMVPに選ばれ、2012年のロンドン五輪で銅メダルを獲得した。

思わず考えたくなる工夫

人物との距離を縮めるために



自分のこととして考えられるように

【工夫1】

★映像教材を併用する

→人物に興味をもたせたり、内容を捉えやすくしたりする

【工夫2】

★自分と人物を比較する

→自分に取り入れられることを考えさせ、自分の生活とつなげる



【学習の過程】 (T…教師、S…生徒)

導入 1 自分の長所を見つめる。

T：あなたの長所はどのようなところですか。

S：責任感が強いところ

S：人見知りをしないところ

S：友達に優しくできるところ

S：物事に粘り強く取り組むところ

T：自分の短所に対する見方や考え方を変えて、長所を伸ばしたスポーツ選手・竹下佳江さんのバレーボール人生について考えていきましょう。

展開 2 竹下佳江選手のバレーボール人生から、短所を克服することについて考える。

※ 竹下選手が特集されているドキュメンタリー映像を見せた後、教材文を読ませる。



内容理解を確かなものとした上で話し合うことができるよう、教科書の読み物教材を読ませる前に映像教材を見せる。

T：竹下選手の短所はどのようなところですか。

S：身長が低いところ

T：竹下選手は、自分の短所をどのように克服したのですか。

S：ハンディを埋めるために、日々考え続け、できるまでやった。

S：できないことをそのままにできなかった。

S：高い技術とスピードを身に付けた。

T：竹下選手は、短所をそのままにしないで、考え続けました。

T：自分の短所への向き合い方と竹下選手の短所への向き合い方とを比べて、自分にも取り入れられそうな向き合い方はありますか。

S：自分が今、何ができるのかを考えたい。

S：諦めずに、やり続けたい。

S：「できないじゃなくて、やってみる」と考える。

T：取り入れられることは、たくさんありそうですね。



自分の生き方と竹下選手の生き方を比較して、自分にも取り入れられそうなことを考えさせる。

終末 「短所を武器にする」という言葉の意味を考える。

T：竹下選手が言う「短所を武器にする」というのは、どのようなことでしょうか。

S：「短所をこの先そのままにしていいいのか」と、考え直そうとすることが大切である。

【実践を振り返って】

教科書の読み物教材だけでなく、映像教材を活用することで、人物についての内容をしっかりと理解させた上で授業を展開することができた。自分と比較して、取り入れられることを考えさせることで、「この人だからできるだけ」「自分にはできない」という否定的な視点をもたせずに、自分の生活と関わらせて考えさせることができた。

V 小学校高学年・中学校研究部会のまとめ

(1) 成果と課題

本部会では、「人物教材」を活用した道徳科の授業において、児童生徒が思わず考えたいくなるように、指導方法の工夫について研究を進めました。その結果、次のような成果と課題が明らかになりました。

【成果 (○)】

- クイズや映像、名言を活用して、人物の紹介の仕方や教材提示の方法を工夫したことで、児童生徒が人物に親近感をもったり、興味をもって教材を読んだりする様子が見られ、自分自身と人物との距離が縮まった。
- 自分自身と人物との距離を視覚化することで、違いについて考えやすくなり、自分のこととして考えることにつながった。
- 自分の行動や考え方を人物のそれと比較することで、自分と似ているところや、今後取り入れたいことなどが分かり、自分の生活とつなげて考えさせる上で効果的であった。

【課題 (●) と改善点 (→)】

- 授業の最後に、「すごい人物だ」という感想が一番強く児童生徒に残ってしまったことは否めない。
→ 児童生徒が人物の生き方を通して、授業で扱う道徳的価値に照らし合わせて自己を見つめられるようにする。
- 導入で、自分自身と人物との距離が縮まり、自分のこととして考えている様子が見られた。しかし、展開では、導入からの思考の連続性が不十分であった。
→ 導入で、人物に興味や関心をもたせ、児童生徒を人物に引き寄せる。その上で、展開において、更に考えを深めていくことで、より人物との距離を縮め、自分のこととして考えることができるようになる。
- 内容理解に時間が掛かり、話し合いの時間を十分に確保することができなかった。
→ 教材を事前に読ませておいたり、映像を活用する際には、視聴させる内容を精選したり吟味したりする必要がある。

<部員の声から>

指導方法の選択肢が多くなり、授業の幅が広がりました。



同じ「人物教材」でも、工夫次第で様々な展開の仕方があることを学びました。今後も、学級の実態に合った効果的な工夫を考えていきます。

(2) 今後の方向性

「人物教材」には、多様な生き方が織り込まれています。工夫を取り入れることで、人物との距離を縮めたり、自分のこととして考えられるようにしたりして、児童生徒が思わず考えたいくなる道徳科の学習をつくっていくことができることが分かりました。今後は、授業後にも議論が続き、人物の生き方から自己の（人間としての）生き方について考えを深められる実践を提案していきたいと思えます。

本年度のあゆみ

月	日	小学校低学年・中学年研究部会	小学校高学年・中学校研究部会	合同学習会
5	7	研究部員総会（紙面開催）		
5	15	体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫について（紙面開催）	人物教材を活用した指導方法の工夫について（紙面開催）	
6	12	体験的な学習を取り入れた授業を考える（紙面開催）	人物教材を活用した指導方法の工夫を考える① ～小学校6年生の教材を使って～（紙面開催）	
7	8	公開授業の検討①	人物教材を活用した指導方法の工夫を考える② ～中学校1年生の教材を使って～	導入のアイデア
8	26	公開授業の検討②	人物教材を活用した指導方法の工夫を考える③ ～小学校5年生の教材を使って～	教材提示のひと工夫
9	4	公開授業の模擬授業		「考え、議論する道徳」をつくる発問
9	24	部員の実践の紹介	人物教材を活用した指導方法の工夫を考える④ ～中学校2年生の教材を使って～	思考を深める板書
10	7	公開授業の事前検討会（授業者による模擬授業）		
10	20	小学校低学年・中学年研究部会 授業研究		
10	28	公開授業のビデオ視聴 事後検討会		ノート、ワークシートの活用
12	17	研究発表会の流れについて	研究発表会の流れについて	道徳科の評価
1	12	研究発表会の準備	研究発表会の準備	終末のアイデア
1	19	研究発表会リハーサル		
1	26	研究発表会		
2	10	来年度に向けて	来年度に向けて	模擬授業から学ぶ

※ 1月以降については、予定が掲載されています。

導入のアイデア ①

導入では「なぜなのだろうか」「考えてみたい」と課題意識をもたせることが大切です。例えば、働くことの大切さをテーマにした授業で、ごみ拾いをしている写真や「真夏・40℃・ボランティア」というキーワードを示し、導入と終末を結びつける工夫を紹介しました。

第1回



導入のアイデア ②

「目標を達成させる上で大切なことは何か」と授業で扱うテーマにふれる発問で授業を始めるという工夫もあります。また、登場人物の紹介をクイズ形式で行い、楽しい雰囲気を作ることも大切です。

合同学習会

令和2年度 学習会テーマ

第1回 導入のアイデア

第2回 教材提示のひと工夫

第3回 「考え、議論する道徳」をつくる発問

第4回 思考を深める板書

第5回 ノート、ワークシートの活用

第2回

教材提示の ひと工夫

どうして教材が必要になるのか。学習指導要領解説では、「共通の教材がないと、個々の体験に基づいて、互いの経験を語り合うだけになる。共通の場面設定(教材)の中で、登場人物のことについて考え話し合うことで、価値観の違いが起こり、そこに議論が生まれる」とあります。

教材提示の工夫には、動画や映像などの活用、スライドを用いた工夫があります。また、ペープサートを用いたり、紙芝居を読み聞かせたりして、登場人物の補足的な説明を加えるという工夫によって、教材への理解が進み、考えを深めることができます。



第3回

「考え、議論する道徳」をつくる発問

小学1年の教材「あしたはえんそく」を用いて学習会を行いました。

「みんなで決めた約束を変えることは、本当によかったのか」と考えを揺さぶることで、主人公の行動について、改めて考えさせることができます。「なぜそう考えたのか」と考えの根拠を明らかにすることで、友達の考えとの違いが明確になり、議論しやすくなります。

第4回

思考を深める板書

板書には、ねらいを追求していく際の思考を深めたり、話し合い活動の活性化を図ったりする効果があります。発言を板書された児童生徒は、自分の考えが認められた、分かってもらえたという満足感や喜びが得られます。

また、登場人物の心情と行動が対応するように表に整理して板書する工夫についても紹介しました。



名古屋道徳教育研究会
ホームページ

第5回

ノート、ワークシートの活用

文章で記述せずに、絵を描く、色を塗って表現する活動もお勧めです。

また、友達の考えを聞いて、共感したり参考になったりした点や、自分の考えが変化した点を自分の考えに付け加えて書かせます。このようにすることで、振り返ったときに、自分の考えが深まったことが分かりやすくなります。

第6回 道徳科の評価

第7回 終末のアイデア

第8回 模擬授業から学ぶ

於 教育館 18:30 ~

第8回 合同学習会は、2月10日(水)に予定しています。

会員の方でなくても、お気軽にご参加ください。

皆様のご参加をお待ちしております。

あ と が き

情報社会（Society4.0）から、インターネットや人工知能（AI）を活用した社会（Society5.0）を迎えました。平成30年6月に文科省から出された「Society5.0に向けた人材育成」には、「公正に個別最適化された学びを実現する」とあります。また、令和元年12月に文科省が打ち出した「GIGAスクール構想」の目的は、「誰一人取り残さない、公正に個別最適化された学びの実現」とされています。児童生徒にコンピュータを一人一台配備すれば、個別最適化が実現するわけではありません。私は、「個人」としての学習者の問題について考えてみました。

鴻上尚史・佐藤直樹著『同調圧力 日本社会はなぜ息苦しいのか』（講談社現代新書、2020年）を読みました。本書の主張は、鴻上氏による「まえがき」にある「あなたを苦しめているものは『同調圧力』と呼ばれるもので、それは『世間』が作り出しているものです」に要約されます。鴻上氏は、「『同調圧力』とは、『みんな同じに』という命令です」「多数派や主流派の集団の『空気』に従えという命令が『同調圧力』です」「この『同調圧力』を生む根本に『世間』と呼ばれる日本特有のシステムがあります」と述べます。佐藤氏は、「日本人は『世間』に住んでいるけれど、『社会』には住んでいない」と述べます。また、佐藤氏は「社会」と「世間」を比較して、「社会」は「個人の集合体」であり、「世間」は「個人の不在」であるとまとめています。

さて、「個別最適化された学び」に話を戻しましょう。不登校、障害、外国籍、LGBTQなど、多様性を考慮しつつ、「個人」としての学習者である、児童生徒一人一人のニーズに応えていこうとするものが、「個別最適化された学び」の趣旨であると考えます。このような趣旨を踏まえて、「主体的・対話的で深い学び」へと授業の質的転換を図ることが、今、求められています。道徳科では、「主体的・対話的で深い学び」を「考え、議論する道徳」と言い換えることができます。

名古屋市道徳研究会として、どんなことができるかを考えました。「夢に向かって生きる子どもたち」を全体テーマとして、二つの研究部会に分かれて、実践研究に取り組みました。「小学校低学年・中学年研究部会」では、テーマを「みんなと創る楽しい道徳科の学習」として、「役割対話活動」を取り入れた指導方法の工夫について研究しました。「小学校高学年・中学校研究部会」では、テーマを「思わず考えたくなる道徳科の学習」として、「人物教材」を活用した授業における指導方法の工夫について研究しました。

本会報に掲載されている実践には、どの学年の道徳科の授業にも生かすことができるアイデアや工夫が詰まっていると自負しております。ぜひ、校内の先生方に紹介していただき、多くの先生方に活用していただけることを切に願っております。

おすびに、本研究会に対しまして、格別のご支援とご指導を賜った皆様方に、心より感謝申し上げます。また、本会報を発行するにあたり、実践や執筆に尽力した方々に敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

名古屋市道徳研究会委員長

名古屋市立川中小学校 平子 晶規